2026.8

アイアン・プロテクト キーパー

作業マニュアル

⚠ 脚立使用時の注意事項

アイアン・プロテクト キーパー	P3～P18
アイアン・プロテクト プレミアム仕様	P19～P21
アイアン・プロテクト メンテナンス	P22～P29
オプション 鉄粉取り	P30
オプション 細密研磨	P31
撥水効果についての基礎知識	P32

KeePer技研株式会社

⚠ 脚立使用時の注意事項



脚立は安全のため
以下の項目に注意して使用する。

※脚立は、取扱説明書に従って正しく使用する。

●使用時は安全のためにヘルメットを
着用する。



●脚立の滑り止めが
剥がれている
脚立は使用しない。



●脚が 4 点とも接地し、
ぐらつかず自立した状態で使用する。



●使用時に転びそうになった場合は、
持っている道具を放し、両手で身を守る。

アイアン・プロテクトキーパーで使用するツール

STEP.2 汚れ落とし工程で使用

●爆ツヤ または 爆白ONE
●爆ツヤ専用小分けボトル
　または 爆白ONE専用小分けボトル
●スポンジ 青
●ラ・モップⅡ



STEP.3 ガラスコーティング STEP.4 レジンコーティングで使用

●ダイヤモンドキーパーケミカル
●レジン2
●マイクロスポンジ
●レジン用スポンジA
●ダイヤクロス
●レジンクロス



●キーパークロス



●快洗Taoる



●キーパー
チェックボード



●KeePer
チェックライト



アイアン・プロテクトキーパープレミアム仕様で使用するツール ※上記ツールも含む

ボンネット・トランク・ドア・給油口の内側

●ダイヤモンドキーパー
　ケミカル
●レジン2
●グラスアップゼロ



無塗装樹脂パーツ

●ベストブラックⅡ
●爆ツヤ または 爆白ONE



レンズ類・バイザー

●ポリカコート
●爆ツヤ または 爆白ONE



窓ガラス全面

●シリコンウインドウKeePer
●シリコンウインドウKeePer仕上げ剤
●グラスポリッシャーGPⅢ



ホイールコーティング

●ホイールコーティング2
●ホイールクリーナー



エンジンルーム

●レジン2
●ホイールクリーナー



タッチパネル

●スマホキーパー



除菌・車内清掃

●スチーム除菌
●内窓クリーナー



便利品

●ブレーキダストクリーナー
(B.D.C)



●B.D.C用スプレー容器



●ホイール用スポンジ



●タイヤキーパースタンダード・
またはタイヤキーパー



●柄付 タイヤスポンジ



●脚立・ヘルメット



⚠ 注意：
● 脚立使用時は安全のために
　ヘルメットを着用する。

アイアン・プロテクトキーパー 作業の流れ

STEP.1	洗車	P3
↓	オプション **鉄粉取り**（鉄粉が付着している場合）	P.30
STEP.1	汚れ落とし工程	P4
↓	オプション **細密研磨**（経年車で塗装が劣化している場合）	P.31
STEP.2	ガラスコーティング（1層目）	P8
↓	**3時間の自然硬化** または **水ジメ作業**	
STEP.3	ガラスコーティング（2層目）	P12
↓	**1時間の自然硬化** または **水ジメ作業**	
STEP.4	レジンコーティング / 仕上げ	P14

⚠ 注意：アドバンストドライブのLiDAR表面には
ボディーコートを施工しないでください。

撥水コーティング剤がLiDAR表面に付着すると、雨天時にセンサ表面に細かな水滴が発生し、
センサが汚れと誤検知され、「LiDAR 一時使用できません」と表示される場合があります。
（レクサス「LS」・トヨタ「ミライ」等）



（写真）フロントナンバー下のLiDAR

STEP. 1 洗車

❶ 手洗い又は、洗車機で水洗いをします



参考
- 経年車の場合、汚れに応じて
  下記の専用ケミカルをあらかじめかけておくと
  その後の前処理の作業効率がよくなります。

「虫」汚れには

インセクトリムーバー



使用するツール

インセクトリムーバー
（ボディ・ガラス面の強力虫取り剤）



虫が付いている箇所に水をかけ
インセクトリムーバーをスプレーする。

「ピッチ・タールの汚れ」には

タールリムーバー



使用するツール

タールリムーバー
（ピッチ・タールクリーナー）



ピッチが付いている箇所に水をかけ、
タールリムーバーをスプレーする。

「ホイールの油汚れ・ブレーキダスト」には

ブレーキダストクリーナーB.D.C



使用するツール

ブレーキダストクリーナーBDC
（自動車用ホイール洗浄剤）



B.D.Cをホイールの中心から噴き付け、
汚れが浮いてきたら高圧スプレーで洗い流す。

※ホイールコーティングを
する場合は、
「ホイールクリーナー」で
前処理を行います。

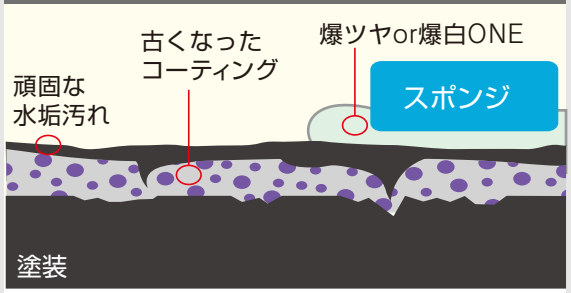




STEP.2 汚れ落とし工程

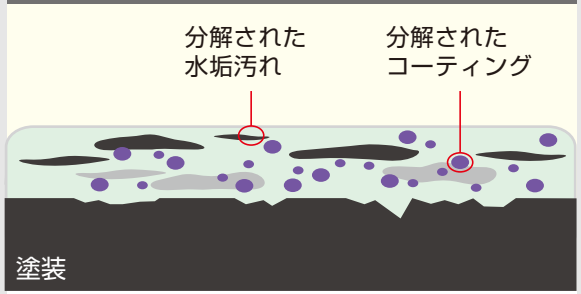
塗装表面の汚れを落とします

爆ツヤor爆白ONEを塗る



1スパンずつ隙間なく塗り広げる。

付け置き



化学的な力で、汚れを分解し
浮かせる。(付け置き)

汚れを動かす



浮いた汚れを軽く動かして崩す。

用意するもの



爆ツヤ (水垢落とし剤)

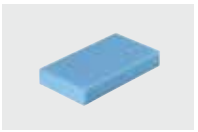
- どれだけゴシゴシ擦ってもキズが付くどころか、むしろツヤが出るほど安全性を持った未だかつてない超安全な、強力洗浄剤です。
- 洗浄能力は爆白ONEの87%。コーティング塗布前の「脱脂」の機能まで持っています。
- 特に新車、黒色車に最適です。



爆白ONE (水垢落とし剤)

- アルカリの化学的な力と、超微粒子パウダーの物理的な力を併せ持ちながら、塗装を決して傷めない安全かつ強力な水垢除去剤です。(特許登録済)
- 水垢汚れだけでなく、古くなったコーティングをすっきりと落とすことができ、あらゆるコーティングの下地処理として有効です。
<特許番号　第4077734号>

●スポンジ 青



●作業用ゴム手袋
(爆ツヤ・爆白ONE作業時のみ使用)



●ラ・モップ Ⅱ



STEP.2　汚れ落とし工程

洗車後、ボディが濡れた状態で作業を行う

❶ 「爆ツヤ」または「爆白ONE」を
「スポンジ 青」に適量取る

＊太線1本

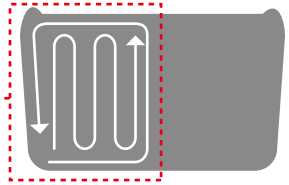




❷ ボンネット半分位の面積に
一定方向に隙間なく
フチまで塗り広げる

＊塗り広げる時の
スポンジの動き

1スパン



＊塗り広げる時の
スポンジの押さえ方

支えるように軽く押さえる。





❸ 3スパンまで❶・❷の
作業を繰り返す





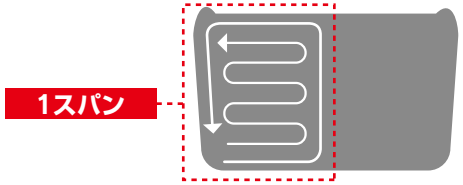
⚠ 注意：

● 「爆ツヤ」または、「爆白ONE」を
ボンネットなどの隙間に入れないよう注意してください。
面の場合は中から塗り広げ、最後に枠を囲めば隙間に入りにくくなります。

STEP.2　汚れ落とし工程

❹ 1スパン目に戻って、塗り広げた塗装面を軽くこする(汚れを動かす)

＊軽くこする時のスポンジの動き



＊軽くこする時のスポンジの押さえ方

手のひら全体でスポンジが半分へこむ位の力で押さえる







参考

- よりきれいにするために、ドアノブのツメによるキズの汚れやエンブレムなど細かな所は特にしっかりと汚れを落とします。

❺ ボディ全体に❶～❹の作業を行う





注意：

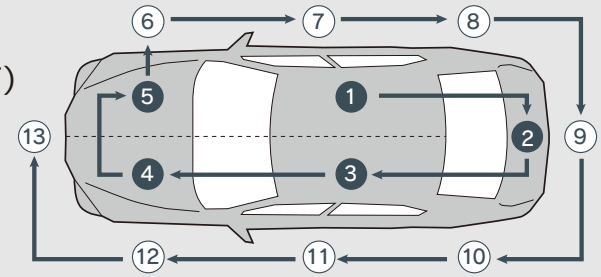
- ガラス面に撥水加工されているお車の場合、撥水効果が落ちることがあります。液ダレしないように注意してください。

参考

- 作業中ボディが乾きそうな時には、水をかけて乾かないようにすると作業が早くすみます。(乾いても塗装に害はありません)

作業の流れ

(●上面、○側面)





STEP.2　汚れ落とし工程

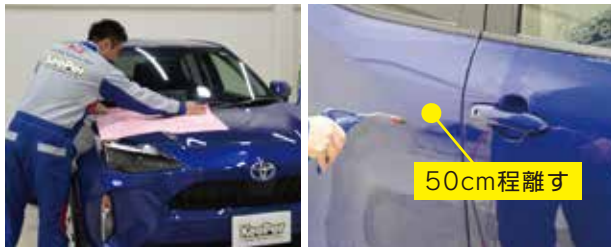
❻ ラ・モップⅡを使って「爆ツヤ」または、「爆白ONE」をしっかりと洗い流す



参考
- 隙間や細かい部分を特にしっかりと洗い流します。

---

❼ 合成セームで水減らしをし、エアーガンでタオルで拭けない隙間の水を飛ばす



注意
- 塗装にエアーガンを近づけ過ぎると、塗装を飛ばす恐れがあるため、50cm程離します。

参考
- ドアミラー、ドアノブ、ワイパー周り、バイザー内側、給油口、アンテナ、ホイール・タイヤ、フロントグリルは、特に念入りに行います。

---

❽ ボディ、窓、ステップ、ボンネットの裏の水を拭き上げ

使用ツール
(左)キーパークロス
(右)快洗Taoる

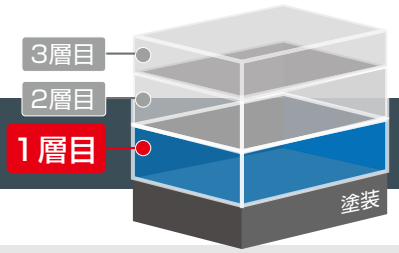




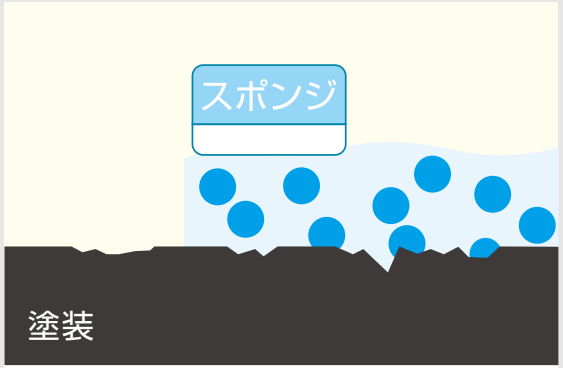
注意：
- ステップ、ボンネット裏は砂やホコリ等が付着するので、別のタオルを使用してください。
  ステップ等を拭いたタオルを窓ガラス、ボディで使用するとキズの原因になります。

参考
- ボディの水滴を「キーパークロス」、窓の水滴を「快洗Taoる」で拭き取ってください。

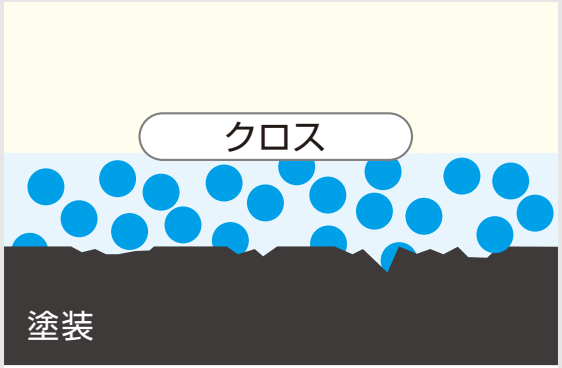
STEP.3 ガラスコーティング（1層目）



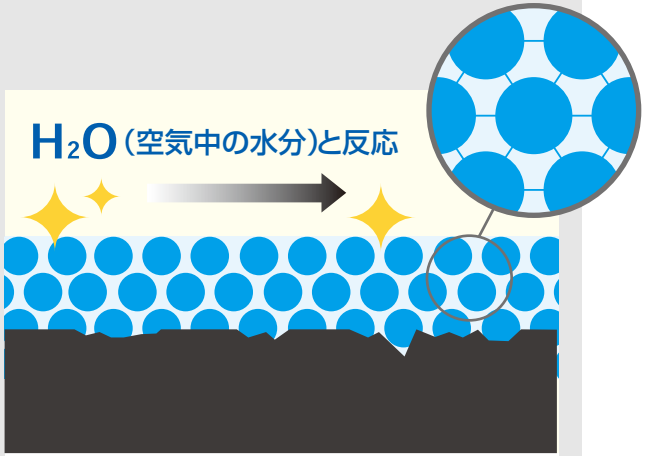
一層目のガラス被膜を形成します



ダイヤモンドキーパーケミカルを塗る。



余分な液を拭き取る。



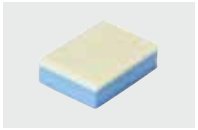
空気中の水分（湿気）と反応をし
高密度ガラス被膜が形成される。

用意するもの



ダイヤモンドキーパーケミカル
（ボディガラスコーティング剤）

●最高級品質のツヤと光沢を出す本物のボディ
ガラスコーティング剤。施工性の良さも魅力です。
●塗装を傷める成分を一切含まないので、
安全に施工することができます。
<ドイツSONAX社と共同開発商品>



マイクロスポンジ

ダイヤモンドキーパーケミカルなど
コーティング用
※新品を使用してください。



ダイヤクロス（×4枚以上）

ダイヤモンドキーパーケミカルなどの
拭き上げ用のクロス。
※1台施工ごとに洗えば再使用できます。



STEP.3　ガラスコーティング（1層目）

塗装面が乾いた状態で作業を行ってください。

**●ダイヤモンドキーパーの施工はピット内など
ホコリのない場所で行ってください。**

ホコリが舞うようなところでの施工は
ボディに傷をつける原因となります。

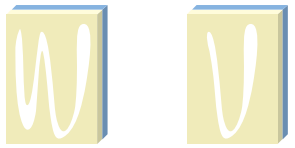


**●炎天下はもちろん、
温度が高い場所での施工は避けてください。**

炎天下やボディが熱い状態で施工すると急激な反応により、
塗りムラや拭きづらくなるといった現象が出る場合があります。
ボディが熱い場合は、よく冷ましてから施工してください。

❶ 乾いた「マイクロスポンジ」に「ダイヤモンドキーパーケミカル」をスプレー

＊最初は2往復（Wの字）　＊以降は1往復（Vの字）

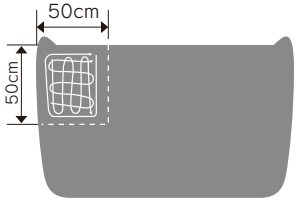




参考
- 飛散した「ダイヤモンドキーパーケミカル」が付着しないよう、車に背を向けて、スプレーノズルと「マイクロスポンジ」を近づけてスプレーします。

❷ 約50cm四方の面積に、タテヨコに隙間なくフチまで塗り広げる

＊スポンジの動き



＊スポンジの持ち方
スポンジを
軽く掴むように持つ





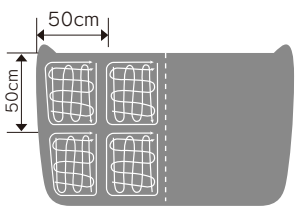
注意：
- 1スパンの面積を約50cm四方の面積よりも広くしないでください。（被膜として必要な厚みが確保できません）

参考
- スポンジの動きが重く感じたら「ダイヤモンドキーパーケミカル」を足してください。

STEP.3　ガラスコーティング（1層目）

❸ ボンネット半分位の面積に❶❷の作業を繰り返す

＊スポンジの動き



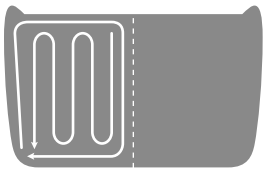




参考
- となりのスパンと少し重なるようにして隙間なく塗り広げてください。
- 湿度が高い場合は、小さくすると施工しやすくなります。

❹ 1枚目の乾いた「ダイヤクロス」で拭く

＊クロスの動き



＊クロスの持ち方
クロスのカドを親指でロックするように挟む

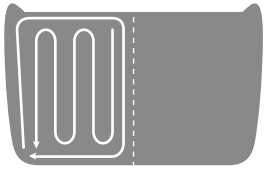




参考
- ケミカルが硬化する前に拭き上げてください。
- クロスは面を換えながら拭き上げてください。

❺ 2枚目の乾いた「ダイヤクロス」で仕上げる

＊クロスの動き





参考
- 塗布した面積よりも、少し広く拭くことでキレイに仕上がります。

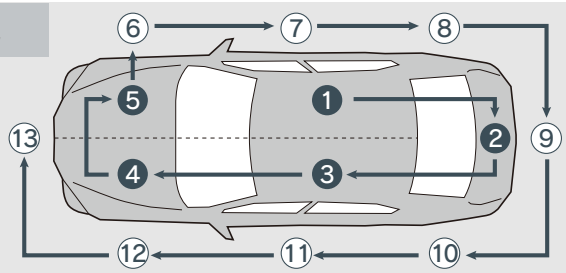
STEP.3　ガラスコーティング（1層目）

❻ ボディ全体に❶～❺の作業を行う

参考
- ゴム・無塗装樹脂パーツなど、ボディ以外のパーツに付かないように塗布してください。（付いても害はありません）

コーティングの流れ

（●上面、○側面）





❷ 3時間自然硬化 または 水ジメ作業

屋内で3時間の自然硬化または、水ジメ作業を行う

参考
- ガラスコーティング1層目と2層目の間は屋内で3時間の自然硬化もしくは水ジメ作業が必要です。
- 水ジメ作業で時間短縮をした場合でも仕上がりと品質は変わりません。

水ジメを行う場合の使用ツール
❶純水・純水用蓄圧式スプレー
❷キーパークロス
❸プラセーヌ



水ジメを行う場合

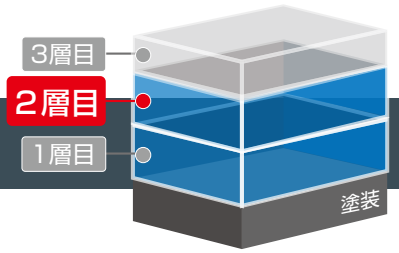


ボディ全体に「純水」のミストを噴きかける

「純水」をプラセーヌで拭き取りながらガラス被膜表面を締めます

残った水滴は「キーパークロス」または「快洗タオル」で拭き取る

STEP.4 ガラスコーティング（2層目）



❶ 2層目のガラスコーティングを 1層目と同じスパン、同じ手順で施工する



参考
- 硬化時間の後、ボディにホコリが乗っている場合は、
  エアーガンでホコリを飛ばしてから次の作業をしてください。
  もし、ボディに汚れが多く乗ってしまった場合は、洗車(拭き上げ)をしてから次の作業をしてください。
- 水のかからない場所で、保管をしてください。

❷ 1時間自然硬化 または 水ジメ作業

屋内で1時間の自然硬化または、水ジメ作業を行う

参考
- ガラスコーティング2層目と
  レジンコーティングの間は
  屋内で1時間の自然硬化もしくは
  水ジメ作業が必要です。
- 水ジメ作業で時間短縮をした場合でも
  仕上がりと品質は変わりません。

水ジメを行う場合の使用ツール
❶純水・純水用蓄圧式スプレー
❷キーパークロス
❸プラセーヌ



水ジメを行う場合



ボディ全体に
「純水」のミストを
噴きかける

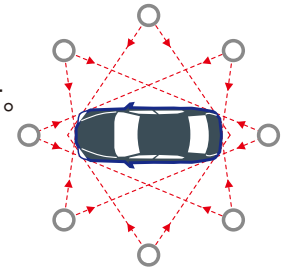
「純水」をプラセーヌで
拭き取りながら
ガラス被膜表面を
締めます

残った水滴は
「キーパークロス」または
「快洗タオル」で
拭き取る

STEP.4　ガラスコーティング（2層目）

❼ 拭き残しなどを確認

施工を終えたら、いろいろな角度から施工車を見て、拭き残しがないか確認します。





参考

- 1m位離れたところから角度を変えてチェックします。
- 上面は、蛍光灯などの映り込みを見ながら拭き残しがないか確認。
  側面は、ボディに映り込んだ「チェックボード」等に拭き残しがないか確認します。
- もしくは「KeePerチェックライト（推奨）」でボディ全体に拭き残しがないか確認します

使用ツール
(左)KeePerチェックライト
(右)チェックボード





ワンポイントアドバイス

●コーティング施工時のNGな動作集



スポンジを押さえる時に力を入れすぎ



スポンジを握るようにして使う



クロスを握るようにして使う



クロスを広げたまま使う



円を描くように塗布する



容器や道具をボディに載せる

●拭いても取れないムラがある場合はダイヤモンドキーパーケミカルの拭き残しです。

ダイヤモンドキーパーケミカルをマイクロスポンジに少量付け、拭き残しのある部位を軽くこすってから、ダイヤクロスで速やかに拭き取り、再度レジン2を施工して仕上げてください。



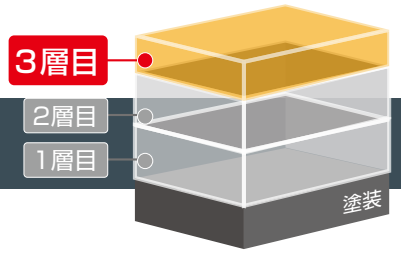


●飛散したダイヤモンドキーパーケミカルがボディ以外に付いた場合は…

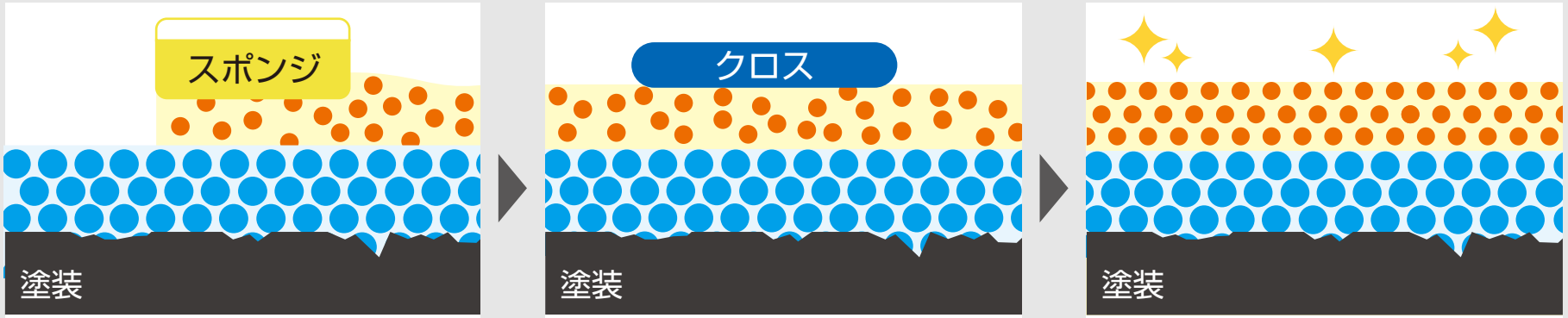
ウィンドウガラス編　窓用クリーナーなどを、キーパークロスに付けてこすると簡単に落ちます。

ゴム、プラスチック編　湿らせて固く絞ったキーパークロスで拭き取ります。

STEP. 5 レジンコーティング



3層目のレジン被膜を形成します



レジン2を塗る。

余分な液を拭き取る。

ガラス被膜の上にレジン被膜が定着。

用意するもの

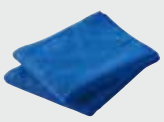


レジン2（レジンコーティング剤）

●ダイヤモンドキーパーケミカルの被膜の上に重ね塗りをすることで、強撥水性のレジン被膜を形成することができます。
<特許出願公開番号・特開2009-112952>

レジン用スポンジA

レジン2用のスポンジ
※1台施工ごとに洗えば再使用できます。



レジンクロス（×6枚以上）

FRESHレジン、ダイヤ II レジン、
レジン2の拭き上げ用のクロス。
※1台施工ごとに洗えば再使用できます。



STEP.5　レジンコーティング

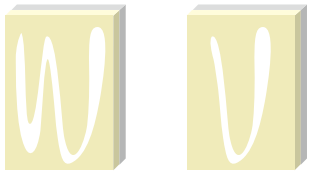
❶ 「レジン2」の缶を逆さにしてよく振る



❷ 乾いた「レジン用スポンジA」に「レジン2」の缶を立ててスプレー

参考
- 飛散したレジン2が付着しないよう、車に背を向けて、スプレーノズルと「レジン用スポンジA」を近づけてスプレーします。

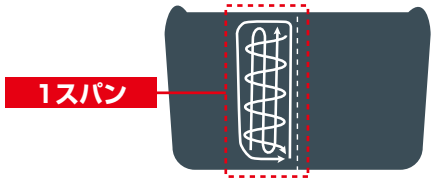
＊最初は2往復（Wの字）　＊以降は1往復（Vの字）





❸ ボンネット1/4位の面積にタテヨコに隙間なくフチまで塗り広げる

＊スポンジの動き



＊スポンジの持ち方
スポンジを軽く掴むように持つ





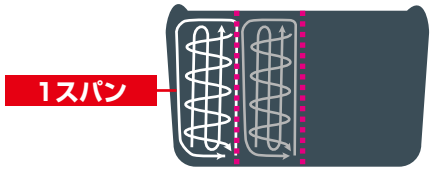
注意：
- 1スパンの面積をボンネット1/4よりも広くしないでください。（被膜として必要な厚みが確保できません）

参考
- 「レジン用スポンジA」の動きが重く感じたら「レジン2」を足してください。

STEP.5　レジンコーティング

❹ となりのスパンに、❶〜❸の作業を繰り返す

＊スポンジの動き





参考
- となりのスパンと少し重なるようにして隙間なく塗り広げてください。

❺ 1枚目の乾いた「レジンクロス」でクロスの面を換えながら2回拭く

＊クロスの動き



＊クロスの持ち方
クロスのカドを親指でロックするように挟む





参考
- 「レジン2」が乾く前に速やかに拭き上げてください。
- 拭き取りにくくなったら、「レジンクロス」を換えてください。
- 塗布した面積よりも、少し広く拭くことでキレイに仕上がります。

❻ 2枚目の乾いた「レジンクロス」でクロスの面を換えながら2回仕上げ拭き

＊クロスの動き





参考
- クロスは面を変えて拭き上げてください。
- 「レジンクロス」はどちらの面を使用しても仕上がりに差はありません。
- 拭き取りにくくなったら、「レジンクロス」を換えてください。

STEP.5　レジンコーティング

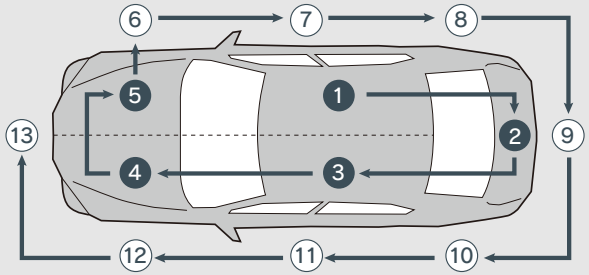
❼ ボディ全体に❶～❻の作業を行う



⚠ 注意：
- エンブレムやドアノブなど、細かな部分に「レジン2」が入り込まないように注意してください。
- もし「レジン2」が隙間に入った場合は、エアーガンで吹き飛ばしてください。

レジンコーティングの流れ

（●上面、○側面）





参考
- 作業の途中で、拭き取りにくくなったら「レジンクロス」を換えてください。
- 作業の途中で、塗り広げにくくなったら「レジン用スポンジA」を換えてください。

STEP.5　レジンコーティング / 仕上げ

❽ 仕上がり確認

参考
- 1m位離れたところから角度を変えてチェックします。
- 上面は、蛍光灯などの映り込みを見ながら拭き残しがないか確認。
  側面は、ボディに映り込んだ「チェックボード」等に
  拭き残しがないか確認します。
- もしくは「KeePerチェックライト（推奨）」で
  ボディ全体に拭き残しがないか確認します。
- 拭き残しがあれば、乾いた「レジンクロス」で仕上げ拭き。
  窓、レンズ類、樹脂パーツは、水で固く絞った「キーパークロス」で
  拭き上げます。



蛍光灯などの映り込みを見ながら
拭き残しがないか確認します。



ボディに映り込んだ「チェックボード」に
拭き残しが映らないか確認します。





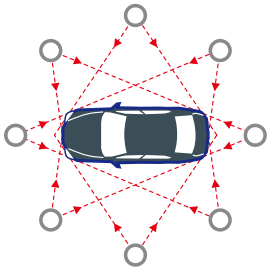
使用ツール
（左）キーパークロス
（中）チェックボード
（右）KeePerチェックライト



❾ 最終確認

もう一度、全体がしっかりコーティングがされているか、
拭き残しがないか、いろいろな角度から確認します。

参考
- 1m位離れたところから角度を変えてチェックします。





アイアン・プロテクト
キーパー

プレミアム仕様

アイアン・プロテクトキーパー
プレミアム仕様 作業マニュアル

アイアン・プロテクトキーパープレミアム 施工箇所

ボディ



ダイヤモンドキーパーケミカル・
レジン 2
爆ツヤ または 爆白 ONE



レンズ・バイザー



ポリカコート
爆ツヤ または 爆白 ONE



エンジンルームの中



レジン2
ホイールクリーナー



窓ガラス



シリコンウインドウ KeePer
シリコンウインドウ KeePer 仕上げ剤
グラスポリッシャー GPⅢ

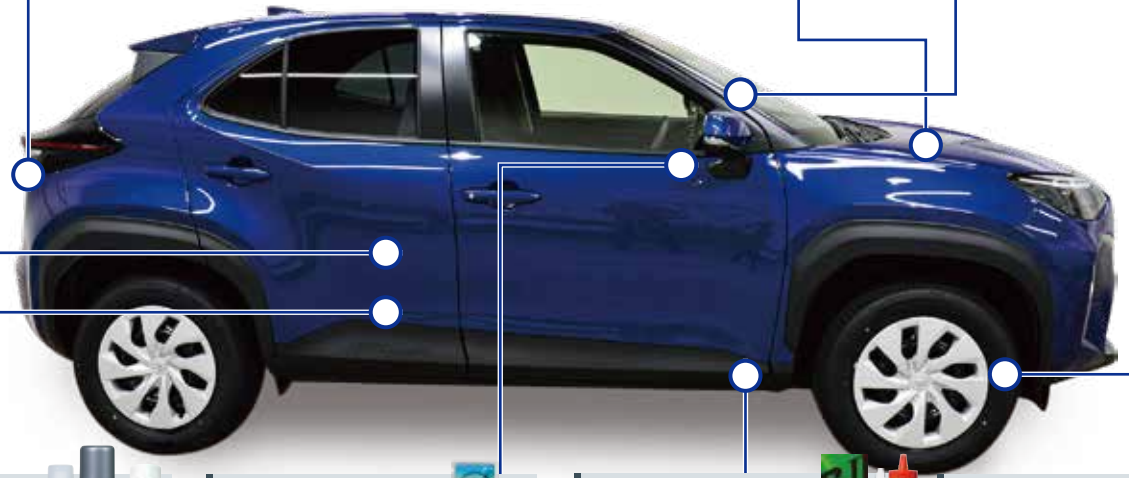


除菌・車内清掃



スチーム除菌





ボンネット・トランク・ドア・給油口の内側



ダイヤモンドキーパーケミカル・レジン 2
グラスアップゼロ



※ドアは、内側のステップ部分、
開けたドア側を施工

タッチパネル



スマホキーパー



無塗装樹脂パーツ



ベストブラックⅡ
爆ツヤ または 爆白 ONE



ホイール



ホイールコーティング 2
ホイールクリーナー



※通常のホイールは
ホイールコーティング(ダブル)、
マットホイールには
「マットホイールコーティング」を施工

アイアン・プロテクトキーパープレミアム 作業の流れ

	ボンネット・トランク・ドア・給油口の内側	ホイールコーティング ダブル	ホイールコーティング マット	レンズ・バイザーコーティング	シリコンウインドウキーパー	無塗装樹脂パーツ	エンジンルームの中	タッチパネル	除菌・車内清掃
									
	使用ツール ●ダイヤモンドキーパーケミカル ●レジン2 ●グラスアップゼロ 	**使用ツール** ●ホイールコーティング2 ●ホイールクリーナー 	**使用ツール** ●マットテクスチャガラス ●マットテクスチャレジン ●マットホイールキーパーブラシ ●ホイールクリーナー 	**使用ツール** ●ポリカコート ●爆ツヤ または爆白ONE 	**使用ツール** ●シリコンウインドウKeePer ●シリコンウインドウKeePer仕上げ剤 ●グラスポリッシャーGPⅢ 	**使用ツール** ●ベストブラックⅡ ●爆ツヤ または爆白ONE 	**使用ツール** ●レジン2 ●ホイールクリーナー 	**使用ツール** ●スマホキーパー 	**使用ツール** ●スチーム除菌 
STEP.1 洗車	洗車	洗車	洗車	洗車	洗車	洗車	ホイールクリーナーで洗　浄		
STEP.2 汚れ落とし	グラスアップゼロ	ホイールクリーニング	ホイールクリーニング	爆ツヤ または爆白ONE	油膜取り	爆ツヤ または爆白ONE			
STEP.3 ガラスコーティング（1層目・2層目）	ダイヤモンドキーパーケミカル	ホイールコーティング（1回目）	マットテクスチャガラス						
STEP.4 レジンコーティング	レジン2	ホイールコーティング（2回目）	マットテクスチャレジン	ポリカコート	シリコンウインドウKeePer	ベストブラックⅡ	レジンコーティング	スマホキーパー 付属のアルコール綿で除菌・洗浄してから施工	スチーム除菌 車内清掃
		（コーティングホールド）	マットホイールキーパーブラシで掻き出す	（コーティングホールド）		（コーティングホールド）			

※アイアン・プロテクトキーパーのホイールコーティングは【ダブル】または【マットホイールコーティング】になります。※各工程の作業内容は別途マニュアルを参考ください。

アイアン・プロテクト キーパー

メンテナンス作業マニュアル

メンテナンスで使用するツール

STEP.2 汚れ落とし(コーティング前処理)

●爆ツヤ または 爆白ONE
●爆ツヤ専用小分けボトル または 爆白ONE専用小分けボトル
●スポンジ 青　●ラ・モップⅡ
●キーパークロス　●快洗Taoる





STEP.3 ガラスコーティング

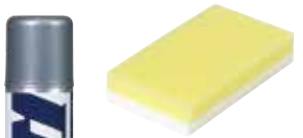
●ダイヤモンドキーパーケミカル
●スポンジ 黄
●ダイヤクロス
●蓄圧式水スプレー



STEP.4 レジンコーティング

●レジン2
●レジン用スポンジA
●レジンクロス
●チェックボード







メンテナンス 作業の流れ

STEP.1	洗車	P24
	オプション **鉄粉取り**(鉄粉が付着している場合)	P30
STEP.2	汚れ落とし(コーティング前処理)	P24
STEP.3	ガラスコーティング	P25
STEP.4	レジンコーティング	P29

STEP. 1 洗車

❶ 手洗い又は、洗車機で水洗いをする

作業内容は
「アイアン・プロテクトキーパー作業マニュアル、STEP. 1 洗車」参照

参照ページ：P3



STEP. 2 汚れ落とし工程

塗装面が濡れた状態で作業を行ってください。

❶ 「爆ツヤ」または「爆白ONE」で汚れを落とす

作業内容は
「アイアン・プロテクトキーパー作業マニュアル、STEP. 2 汚れ落とし工程①～⑥」参照

参照ページ：P4



⚠ 注意：
- 次の作業（ダイヤモンドキーパーケミカル）は塗装面が濡れた状態で行うため、工程⑦水減らし⑧拭き上げは行わない。

STEP.3 ガラスコーティング

塗装面が濡れた状態で作業を行ってください。

炎天下を避け、日陰でボディを冷まして作業をしてください。

**●ガラスコーティングの施工はピット内など
ホコリのない場所で行ってください。**

ホコリが舞うようなところでの施工は
ボディに傷をつける原因となります。



**●炎天下はもちろん、
温度が高い場所での施工は避けてください。**

炎天下やボディが熱い状態で施工すると急激な反応により、
塗りムラや拭きづらくなるといった現象が出る場合があります。
ボディが熱い場合は、よく冷ましてから施工してください。

❶ フロントガラスの上部に タオルを当てておく



参考
- ケミカルを含んだ水がフロントガラスに垂れないようにタオルを当てておく。
- もしダイヤモンドキーパーケミカルがガラス面についてもクロスで拭けば取れます。

---

❷ 水に湿らせ固く絞った「スポンジ(黄)」に 「ダイヤモンドキーパーケミカル」をスプレー

＊最初は2往復（Wの字）　＊以降は1往復（Vの字）







参考
- 飛散した「ダイヤモンドキーパーケミカル」が付着しないよう、
車に背を向けて、スプレーノズルと「スポンジ 黄」を近づけてスプレーします。

STEP.3　ガラスコーティング

❸ ボンネット半分位 一定方向に「隙間」なく フチまでしっかり塗り広げる

＊スポンジの動き



＊スポンジの持ち方
スポンジを支えるように
軽く押さえます。

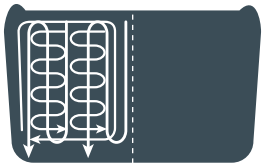




参考
- スポンジ（黄）がボディの水分を含んできたら、絞って「ダイヤモンドキーパーケミカル」を足してください。
- スポンジの動きが重く感じたら「ダイヤモンドキーパーケミカル」を足してください。
- 1スパンの面積をボンネット半分の面積よりも広くしないでください。（被膜として必要な厚みが確保できません）

---

❹ ❸で塗り広げた範囲を クロス方向にすり込み、 ガラス被膜を定着させる



＊スポンジの持ち方
手のひら全体でスポンジが
半分へこむ位の力で押さえる





---

❺ 1枚目の固く絞った「ダイヤクロス」で 拭く

参考
- ケミカルが硬化する前に拭き上げてください。

＊クロスの動き



＊クロスの持ち方
クロスのカドを親指で
ロックするように挟む





STEP.3　ガラスコーティング

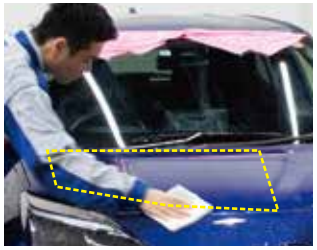
❻ 2枚目の乾いた「ダイヤクロス」で仕上げる

＊クロスの動き



クロスのカドを親指で
ロックするように挟む





参考
- 塗布した面積よりも、少し広く拭くことでキレイに仕上がります。

注意：
- ダイヤクロスは水を固く絞って使ってください。

❼ ボディ全体に❶～❻の作業を行う

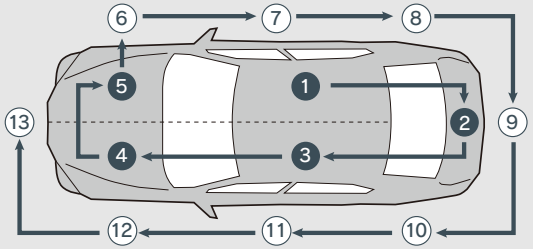


注意：
- 常にボディが濡れた状態で作業をしてください。ボディが乾きそうなときは水スプレーを使ってボディを濡らしてください。
- ウィンドウガラスの水滴は乾く前に拭き取ります。

参考
- ゴム・無塗装樹脂パーツなど、ボディ以外のパーツに付かないように塗布してください。（付いても害はありません）

コーティングの流れ

（●上面、○側面）





ワンポイントアドバイス

●拭き残しが取れない場合は…

ダイヤモンドキーパーケミカルをマイクロスポンジに少量付け、その部分を軽くこすってから、速やかに拭き取りましょう。

●飛散したダイヤモンドキーパーケミカルがボディ以外に付いた場合は…

ウィンドウガラス編　窓用クリーナーなどを、キーパークロスに付けてこすると簡単に落ちます。

ゴム、プラスチック編　湿らせて固く絞ったキーパークロスで拭き取ります。

STEP.3　ガラスコーティング

❽ エアーガンでタオルで拭けない「隙間」の水を飛ばす



参考
- ドアミラー、ドアノブ、ワイパー周り、バイザー内側、給油口、アンテナ、ホイール・タイヤ、フロントグリルは、特に念入りに行います。

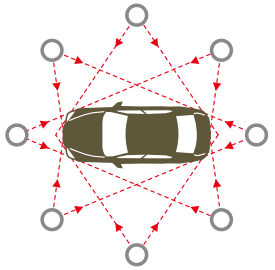
❾ ボディ、窓、ステップ、ボンネット裏の水を拭き取る



注意：
- ステップ、ボンネット裏は砂やホコリ等が付着するので、別のタオルを使用してください。窓ガラス、ボディで使用するとキズの原因になります。

❿ 拭き残しなどを確認

施工を終えたら、いろいろな角度から施工車を見て、拭き残しがないか確認します。









使用ツール
(左)KeePerチェックライト
(右)チェックボード

参考
- 1m位離れたところから角度を変えてチェックします。
- 上面は、蛍光灯などの映り込みを見ながら拭き残しがないか確認。側面は、ボディに映り込んだ「チェックボード」等に拭き残しがないか確認します。
- もしくは「KeePerチェックライト（推奨）」でボディ全体に拭き残しがないか確認します

STEP.4 レジンコーティング

❶ レジン2を施工する

施工内容は
「アイアン・プロテクトキーパー STEP4 レジンコーティング」参照

参照ページ：P14





❶ オプション（鉄粉が付着している場合）

鉄粉取り

塗装面に鉄粉が付着している場合のみ
行います



鉄粉取りで使用するツール

- ピュアアップ4
- アイアンイーター
- トラップ粘土 青



⚠ 注意：塗装面が濡れた状態で作業を行ってください。

STEP.1　ピュアアップ4

❶ 洗車を行い、濡れた塗装面にピュアアップ4を
ボンネット半分程度にスプレーし
手で伸ばす





❷ 30 ～ 40 ㎝四方を1スパンとし
トラップ粘土（青）でタテヨコに素早くこする







⚠ 注意
- ピュアアップ4が乾かないように注意してください。

参考
- ボディが乾きそうになったら水をかけてください。
- 鉄粉が取れたか、手で確認しながら作業を行ってください。

❸ ❶～❷の作業を
鉄粉の付着している箇所に行う



⚠ 注意
- 鋭角なプレスラインは、またがないように
作業してください。
- 1度地面に落とした粘土は廃棄し、使わないでください。

STEP.2　洗い流し

❶ 水で洗い流す



多量の鉄粉が付着している場合

用意するもの
- アイアンイーター
（鉄粉除去剤）




①濡れたボディに
アイアンイーターをスプレーする。


②日陰で乾かない程度に
つけ置く。


③洗い流し、
STEP.1～2の作業を行う。

❷ オプション（経年車で塗装が劣化している場合）

細密研磨

塗装表面が相当劣化している場合のみ
行います



細密研磨で使用するツール

- ●アクアポリッシュ2
- ●RUPES（ルペス）LHR12E（回転数目安：3～4）
- ●低反発バフ
- ●マイクロスポンジ
- ●マスキングテープ





⚠ 注意：塗装面が乾いた状態で作業してください。

STEP.1　マスキング

❶ 洗車後、マスキングをする





参考
- ワイパー付近やウォッシャーノズルなど、必要な箇所をタオルやマスキングテープで保護してください。

塗装面に「アクアポリッシュ2」がからむ場合は、
「ポリッシャー」の回転数を低くして磨いてください。
それでも改善しない場合は、キレイなバフに交換してください。



STEP.2　アクアポリッシュ2

❶「アクアポリッシュ 2」をボンネット 1/4 の面積に適量つけて塗り広げる

*大豆1～2粒くらいの量





❷ タテヨコに磨く



注意
- 安全のため「低反発バフ」を塗装面と平行に軽く当ててから、スイッチを入れます。
- バフは塗装面と平行に当てて磨いてください。バフの回転が止まるほど強く押さないでください（機械の故障に繋がる）
- ゴム部、黒い樹脂部にはポリッシャーを当てないようにしてください。
- ポリッシャーのコードが車に触れないように、上面を施工する時は、コードを肩にかけて作業してください。
- プレスラインは「ポリッシャー」がクロス方向にまたがないように作業をしてください（下地が出やすくなり危険）

❸ 細かい部分を「アクアポリッシュ 2」をつけた「マイクロスポンジ」で磨く





STEP.3　洗い流し

❶ 水で洗い流し、再度洗車を行う



注意
- マスキングを剥がす際は、水で湿らせてからゆっくりと剥がしてください。

参考
- 隙間や細かい部分を特にしっかりと洗い流します。
- 洗車後、残ったアクアポリッシュ2はキーパークロス（マイクロファイバークロス）で拭き取ります。

撥水効果についての基礎知識

アイアン・プロテクト キーパーを施工して数カ月後に洗車をした時に「水はじきが少し落ちた」と感じられた場合でも、それはアイアン・プロテクト キーパーのコーティング被膜が壊れた訳でも、効果がなくなったからでもありません。水はじきを邪魔する「撥水阻害被膜※」が乗っている場合がほとんどなのです。
この撥水阻害被膜は、非常に薄く、もろいものなので簡単に除去してもとの撥水効果を取り戻すことができます。

※自然界には様々な汚れがあり、日常生活の中でそれらが車体にかかります。どれもすぐに洗い流せば全く問題ありませんが、時間が経過し条件が重なった場合において、洗い流しにくい目に見えない程度の「薄い汚れの膜」がコーティング被膜の上を覆います。この外的要因によってコーティング被膜の上にできた、撥水を妨げる膜のことを「撥水阻害被膜」と呼びます。

水はじきを邪魔する主な「撥水阻害被膜」の原因



黄砂によってケイ酸塩被膜・炭酸カルシウム被膜ができる

黄砂を大量に含んだ雨が降ってボディの上で乾くと、コーティング被膜の上に薄く「親水のケイ酸塩被膜・炭酸カルシウム被膜」を作ることがあります。
その結果、コーティング被膜が撥水しなくなったように見えてしまいます。



洗車後の水を拭き上げないで水道水や井戸水によってミネラル被膜ができる

洗車(特にセルフの連続洗車機)などで水を拭き上げないと、水道水(井戸水)がボディの上で乾き、薄く「ミネラル被膜」を作ることがあります。
黄砂と同様に撥水を妨げる原因となります。



雪の多い寒冷地域で雪道にまかれた融雪剤によって塩化カルシウム被膜ができる

融雪剤で用いられる塩化カルシウム・岩塩は水をはじきません。洗車をしても、塩化カルシウムの薄い被膜が残り、撥水阻害の原因となります。

ミネラル取り洗車

洗車をすることで撥水効果を
簡単に取り戻すことができます。



比較的頑固になってしまった撥水阻害被膜が付いている場合には、
「キーパークロスに少量のレジン 2 またはミネラルオフをよく揉み込んで」
洗車の最終拭き上げをすると簡単に取り除くことができます。

ミネラル取り洗車で使用するツール

●レジン2 または ミネラルオフ
●キーパークロス





❶ 洗車をし、洗い流す。





❷ キーパークロスに少量のレジン 2 またはミネラルオフをつけよく揉みこむ





❸ 洗車の拭き上げをしながら撥水阻害被膜を掻き取ると撥水と輝きが復活





マイクロファイバークロスの再利用について

コーティング施工後の「マイクロファイバークロス」は再利用できます。
コーティングに使用後のマイクロファイバークロスは、
すぐに「クロスポクリーナー」を加えた水に
漬け置いてください。

使用するツール

●クロスポクリーナー



❶ バケツに水を入れ「クロスポクリーナー」を加えます。



参考
- 目安は水10ℓにクロスポクリーナーキャップ1杯程度

❷ コーティング施工後すぐにマイクロファイバークロスをバケツの中に漬け置きます。



❸ その後、市販の洗濯洗剤で洗濯します。



参考
- 再利用し続けて、硬くなってきたり、コーティングが拭き取れにくくなってきたら、ウエスなど他の用途に使用してください。